

「新劇運動」の源泉であった築地小劇場運動。その後に訪れたプロレタリア演劇運動と称される時期の演劇が、この国の後の作品に及ぼした影響は非常に大きいと思われる。階級闘争の実態をドラマとして描き、社会変革と演劇創造の統一を志向するプロレタリア演劇運動が本格的に展開されたのは1921年（大正10年）に旗揚げ公演をした平澤計七（1889年～1923年）の「労働劇団」であった。今回はその平澤計七の作品とその影響下にあると考えられる、それ以降の劇作家の作品を研修、リーディング上演による発表を中心に、ふじたあさや氏の基調講演と、それぞれにテーマを設定し行う2つのシンポジウムを開催します。

2月14日（金）17:00 開演 基調講演「プロレタリア演劇の位相」（ふじたあさや）
19:00 開演（リーディング）「工場法」「骸骨の舞跳」

2月15日（土）14:00 開演（リーディング）「工場法」「おさの音」
17:00 開演 シンポジウム1「この地域のプロレタリア演劇を検証する」（企画：はせひろいち）

2月16日（日）14:00 開演（リーディング）「骸骨の舞跳」「おさの音」
17:00 開演 シンポジウム2「今、プロレタリア演劇は有効か？」（企画：齋藤敏明）

※ 開場は開演の30分前。

「工場法」

平澤計七

（ひらさわけいしち 1889年7月14日～1923年9月3日）

新潟県小千谷の出身。小学校卒業後、日本鉄道株式会社（現・JR東日本）に就職。職工としての技術を身につける。この間、文学に興味を持つようになり、「万朝報」や「文章世界」などに投稿。また小山内薫を訪ね劇作の指導を受け、雑誌「歌舞伎」にゴロッキーの影響が見られる戯曲「夜行軍」を発表した。その後、鈴木文治らの友愛会の運動を知り、そこに労働者として生きる希望を見出し、上京すると超人的な努力で400余名の職工を組織し、同会の大島分会を誕生させた。他方、芸術も労働運動に随伴すべきであると主張。「民衆劇団」の旗揚げを視野に友愛会の機関紙「労働及産業」に劇作を投稿。その一つである「工場法」は3ヶ月後に施行されることになっていた工場法が一体どういうものなのかを具体的に明らかにした劇で、どんな抽象的な論説や解説よりも効果的であると認められた。故あって友愛会を離れた後も、新たな課題に挑戦、運動の拠点として労働会館を作り、労働者のための夜学校「文化義塾」「労働劇団」を立ち上げた。1921年2月寄席五の橋館で自作の「労働劇」を上演。それは舞台と観客の一体という演劇の理想を実現したものと、観劇に訪れた小山内や土方与志らを感動させ「労働劇団」は、その後の自立劇団の先駆となった。

しかし、その直後、関東大震災のさなか（9月3日夜）平澤は、身柄を拘束された亀戸署で習志野聯隊の兵士たちによって銃剣で刺殺された。

劇作家として1919年6月、それまでに発表した小説や戯曲を集めた「創作 労働問題」所収の戯曲「一人と千三百人」が労働争議を真正面から描き出した、日本文学における最初の作品だと言われている。

「骸骨の舞跳」

秋田雨雀

（あきたうじゃく 1883年1月30日～1962年5月12日）

日本の劇作家・詩人・童話作家・小説家である。本名は徳三（とくぞう）。産科医である父玄庵（全盲であった）と、母まつ（長男として青森県南津軽郡黒石町（現黒石市）に生まれる。黒石尋常小学校、青森県立第一尋常中学校（青森県立弘前高等学校の前身）を経て東京専門学校（早稲田大学の前身校）英文科に入学する。1908年、恩師の島村抱月の推薦により「早稲田文学」6月号に小説「同性の恋」を発表。小説、劇作、詩、童話、評論、翻訳と幅広く活躍し、島村抱月主宰の劇団・芸術座の運営にも参加した。1915年、来日したワシーリー・エロシェンコと親交を結んでエスペラントを学び、彼と島村ら文化人との親交を取り持った。1921年には小坂猪二と共にエスペラント教本「模範エスペラント独習」を出版。1931年、日本プロレタリアエスペラント同盟（JPEU）の結成に参加した。

戦後の1947年、第1回参議院議員通常選挙に日本社会党公認で青森地区から立候補したが落選している。日本児童文学者協会の第2代会長を務めたほか、東京都豊島区にあった舞台芸術学院の院長を務めた。現在活発な活動を続ける在京の劇団、秋田雨雀・土方与志記念 青年劇場の生みの親である。

「おさの音」

三好十郎

（みよしじゅうろう 1902年4月23日～1958年12月16日）

昭和初期から終戦後の復興期にかけて活動した小説家、劇作家である。佐賀市生まれ。12歳で両親を失う。

早稲田大学英文科卒業。早稲田大学在学中から試作を発表し、プロレタリア演劇の作家として活動を始めた。その後、左翼的な活動に疑問を覚えたとして組織を離脱。戦中も不自由な環境の中で、彼なりの信念を持った作品を書き続ける。戦後は、近代の既成文学全般への批判を貫き、無頼派の一人といわれる。

代表作「炭塵」「斬られの仙太 天狗外伝」「獅子」「その人を知らず」「胎内」「炎の人」「浮標」「廃墟」など多数。

お問合せ先

◎日本演出者協会

TEL 03-5909-3074 FAX 03-5909-3075 HP <http://jda.jp/>

◎日本の近代戯曲研修セミナー in 東海 2013 実行委員会事務局

TEL&FAX 052-752-1033 mail:kikumoto@mild.ocn.ne.jp

◎損保ジャパンひまわりホール TEL 080-1137-9733

☆スタッフ

音響＝後藤佳子 舞台監督＝加藤敦雄

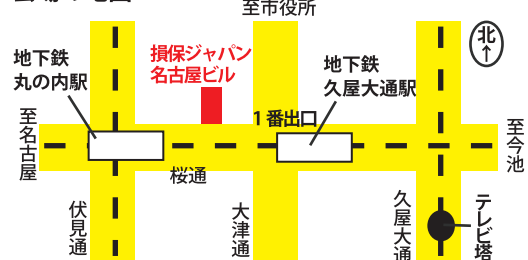
「日本の近代戯曲研修セミナー in 東海」2013 実行委員会

岡田一彦（劇座） 菊本健郎（NEO企画） 木村繁（フリー）

久保田明（劇団名古屋） 齋藤敏明（フリー） なかとしお（フリー）

はせひろいち（劇団ジャブジャブサーキット） 油田晃（劇団 Hi! Position!!）

会場の地図



駐車場はありません。公共交通機関をご利用下さい！

損保ジャパン名古屋ビル 19F（名古屋市中区丸の内 3-22-21）

- 地下鉄名城線または桜通線「久屋大通」下車
1番出口から西へ200m
- 地下鉄鶴舞線または桜通線「丸の内」下車
4番出口から東へ300m